川上小学校　学校だより

# 清流

平成３１年　１月１１日　文責　石 丸　慎 也

## 今年もよい年でありますように ～ 「啐啄同機」

　あけましておめでとうございます。本年も子ども達や保護者の皆様にとってよい年となることを願っています。

　さて，本校に保管されている 10 年ほど前の文書を目にしました。そこには，「啐啄同機（そったくどうき）或いは（さいたくどうき）」という言葉がありました。早速意味を調べてみました。この言葉は，卵が孵化するときに中の雛が自分の嘴で殻を破ろうとする，そのとき親鳥も外からその殻を突いて破ろうとする，そのタイミングが一致するからこそ雛はこの世に生を受けて外の世界に出ることができるという禅語であるということが分かりました。雛が殻を中から破ろうとするのが，また親鳥が殻を外から破ろうとするのが早すぎても遅すぎてもいけない，その絶妙な自然の摂理の時が「啐啄同機」というわけです。

　この言葉のもつ意味をご家庭や学校で子ども達を育てている私たち大人がしっかり意識し，生活の中で子ども達をしっかりと視界にとらえ，タイミングを見逃さず，常に子どものもつ可能性の芽を伸ばしていくことに努めていきたいものです。

## 良い子に成長しますように ～ 老人クラブからの手紙

　昨年 12 月末に下村老人クラブの皆様から手作りのお手玉をいただきました。

　低学年生活科の学習で子ども達は“むかしあそび”を体験しますが，授業にはいつもゲストとして地域の老人クラブの方々が参加してくださっています。お手玉やこま回し，はねつきや竹とんぼなどいろいろな遊びの先生として子ども達といっしょに遊んでいただいています。

　いただいたたくさんのお手玉には手紙が添えられていました。そこには「昔の遊びに参加させて頂き，子どもにかえって楽しいひとときを過ごさせていただいています」「これからも川上小学校の子ども達が良い子に成長していきますように」など，子ども達の健やかな成長を願う温かい言葉が綴られていました。今回いただいたたくさんのお手玉は，２学期終業式の場で全校に紹介させていただきました。子ども達の学習の場で大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。

# 今年も盛り上がった　“川上校区ふれあい祭り”

昨年末，恒例の「川上校区ふれあい祭り」が開催されました。ときおり雨まじりの空模様となりましたが，充実したふれあい祭りや会食会となりました。

毎年，この催しには本校の子ども達もたくさん参加しています。「ふれあい会食会」の場での「６年生による歴史学習成果発表」や「お茶クラブによるお茶のふるまい」など，これまで学習やクラブ活動の場で地域の方々に教えていただいた歴史や文化を，今度は地域の方々へ恩返しをすることができました。

また，勤労者体育館で行われた「おしくらまんじゅう大会」にも多くの子ども達が参加し，５人ひと組で構成した 14 チームが熱戦を繰り広げました。１分間という短い時間の中で一生懸命に踏ん張って相手を押し出す姿が見られました。

一日をとおし，いろいろな催しがありましたが，どの場においても楽しそうに過ごしている子ども達の姿が見られ，地域が一体となったよさを改めて感じました。

川上校区ふれあい祭り会場風景

６年生歴史学習発表のようす

おしくらまんじゅう大会での熱戦

お茶クラブ児童のおもてなし

---

**校長室から**

冬休み，誰もいない校舎へ入った。中庭から子どもの声がする。小さな２台の自転車を見つけた。木のそばで２人の子が遊んでいる。声をかけようと窓を開けた。冷たい風が吹き込んでくる。「何して遊んでいるの?」すると，「鳥を見つけています！」弾けるような声が返ってきた。寒い日だったが，子どもの声に何だか気持ちと体が緩んだ。